

平成24年度 行政連絡員制度 活動内容見直し 新たにスタート



各地区の行政連絡員会議では、連絡員代表に委嘱状が手渡された

平成21年度を境に一旦活動を休止していた行政連絡員制度でしたが、今までの行政連絡員の業務を見直し、今年度より再開しました。

行政連絡員制度を見直した要因には、昨年の東日本大震災をはじめとする災害時の対応があります。仙北市でも近年大きい水害が発生し、災害時の情報収集、発信の必要性が重要とされています。また

新たに空き屋の問題など、地域の状況の変化に素早く対応していくには、細やかな情報の収集が不可欠です。

そこでかつての行政連絡員の活動に注目し、業務や体制を見直し、地域の皆さんの声を地域の安心・安全に繋げられるように、新しい「行政連絡員制度」を立ち上げることになりました。

地域と行政のパイプ役

昨年12月の説明会では、各地域の町内会長をはじめ、大勢の皆さんから意見提案が出されました。

それらの意見をまとめた行

政連絡員制度を開始するにあたり、4月、5月に各地区で連絡員会議を開き、委嘱状の交付や、お願いする役割の説明、意見交換などを行っています。

皆さんからの意見には「防災の体制について情報を知らせてもらいたい」「災害によっては指定の避難所に行くのが難しい」「防災無線が聞こえない。聞こえにくい地域がある」など災害への意識の高まりから、防災に関するご意見が多かったほか、「同様に地域の活動を行っている地域運営体との関わりについて」「休日、夜間の市役所への連絡体制に

市の対応について

市役所では4月より各地域センター、出張所に地域サポートセンターを設置しています。皆さんからの意見を参考に、地域の活動をサポートしていくことにしています。

※各地域の行政連絡員の名簿リストを、今号と併せて配布していますので、ご確認ください。

新しい行政連絡員の役割について

- 緊急時の回覧文書の配布について
緊急に地域内に周知する必要がある場合、回覧文書の配布をお願いします。
- 災害発生時の被災状況の把握と連絡および日常の防災対策について
災害発生時に地域内の被災状況や緊急対応について連絡調整をお願いします。また、地域内の避難場所の確認等日常の防災対策に協力をお願いします。
- 地域内の課題、要望等の提言について
地域内の課題や要望等について行政とのパイプ役をお願いします。
- 地域内の空き家情報の提供について
地域内の空き家情報を随時お知らせください。定住対策としての空き家の活用や危険家屋としての空き家の情報提供をお願いします。
- 地域運営体との連携について
地域運営体の活動にご協力願います。

まちづくり 日記

No.42

『捨てる勇氣』

仙北市長
門脇 光浩

この春、子ども達の半分がネグラを替えました。一人は住み込み状況からアパートへ、一人は家から学校の寮へ。この引っ越し作業は、「本当に必要なモノって何なんだろう」とあれこれ考える機会になりました。

もちろん生活環境が変われば、必要なモノは変わります。女性と男性で必需品に違いがあるのも当然です。若さが多くの「何か」を必要としているのも理解できます。反面モノに囲まれている（縛られている）不自由を、連想してしまいます。

何かの為に、最低の生活必需品を「着替え数枚、歯ブラシとタオル、調理器具や食器、薬や各種クリーム類（私は整髪料は不要です）、寝具、筆記用具、本、現金少々」と書いてありました。基本はこの程度、まさに何日間かのキャンプに出る装備と同じです。

人生は旅に例えられます。そして旅は身軽が一番。質素・シンプルな生き方は、平穏で豊かな生活への近道だと思えるのは、年を重ねた証拠でしょうか。

こんな気持ちで家の中を見てみると、何年も使っていないモノに囲まれていることに、すぐに気がつきます。良い季節になりましたから、まずは身の回りの不要なモノは、リサイクルに出すか、思い切って捨ててしまふ決心時です。これが精神上も生活を前向きにしてくれます。

不要なモノを整理する行為は、行政にとっても重要な視点です。町・村時代には必要だったモノでも、市になったら不要になった、そんなモノは幾つもあります。必要なモノだと分かれば、予算を集中投下して、さらに効率的な使い方やパワーアップが可能で。不要なモノは、捨てる作業を計画的に進めることができます。実際、この手法で体育施設の見直し作業は終盤を迎えています。

「今は必要ないけれど、将来何か使い道があるかも知れない」は、「サイズが合わなくなった洋服だけれど、ダイエットした後でまた着られる」と同じです。ダイエット、だいたい上手いいきません。

派遣職員 トシの 岩手県山田町 レポート



仙北市民の皆さん、お久しぶりです。平成24年4月から岩手県山田町建設課へ派遣の田口俊彦です。4月の赴任から早2カ月が過ぎ、ようやく山田町での仕事や生活にも慣れてきました。

地元職員の方々、他県（青森県、神奈川県、静岡県、長野県）から派遣された職員の方々とともに、総勢27人の大所帯のなかで日々仕事をしています。私は山田町建設課都市整備第1チームに所属しています。

現在では街中はがれきがほとんど無くなり、高台の道路整備や宅地整備が待ったなしの状態です。4月からは各地区の担当者を割り振られ、担当地区毎に説明会や同意書聴取など事業を進めています。

自分の担当は、山田町の南部に位置する山田町船越地区という所

です。その中でも船越田の浜地区は住宅棟数514棟中324棟と約63%が全壊していて、山田町内でも甚大な被害を受けている地区の一つです。「田の浜地区の防災集団移転促進事業について早期着手を」と要望書も提出されていることから、各部署と調整を図りながら事業を進めているところです。

仕事柄、現場などに出向く機会も多いですが先日、仙北市から贈呈された旧スクールバスと遭遇しました。こちらでも仙北市のマイクロバスが活躍しておりうれしく思った出来事でした。仙北市民の皆さん、こちらへ来る機会には、ぜひ山田町役場へお立ち寄りください。建設課は庁舎2階です。

今後とも随時、山田町の状況についてお知らせしていきたいと思っています。（山田町建設課 都市整備第1チーム 主任技師 田口俊彦）



昨年贈呈した旧仙北市バス、現山田町福祉バスが町民の皆さんに利用されています。